

1. 5℃に向けた 京都市の挑戦

京都市地球環境・エネルギー担当局長
下間 健之

日本の首長で初めて京都市長が 「2050年CO2排出正味ゼロ」を表明



日本の自治体初

1. 5℃を目指す京都アピール



2050年
CO2排出量正味



へ！

パリ協定の実行を支える
I P C C 京都ガイドライン



3 つ の 決 意

未来に対する責任 を果たす

京都の役割 を果たす

覚悟 を持って取り組む

主要課題

- ・ 建築物, 人・モノの移動の省エネ化
- ・ 再エネの飛躍的な普及拡大（創る・選ぶ）
- ・ 持続可能なライフスタイルへの転換
- ・ イノベーション・担い手の育成



社会・経済システムの大転換,
これまでの延長線上ではない取組が必要

2050年正味ゼロの目標を設定するには

- 京都市地球温暖化対策条例
- 京都市地球温暖化対策計画

2020年度までに改正・改定予定

気候危機のPR



京都市会

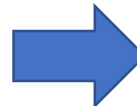


環境審議会



＜2050年推計の主な設定＞

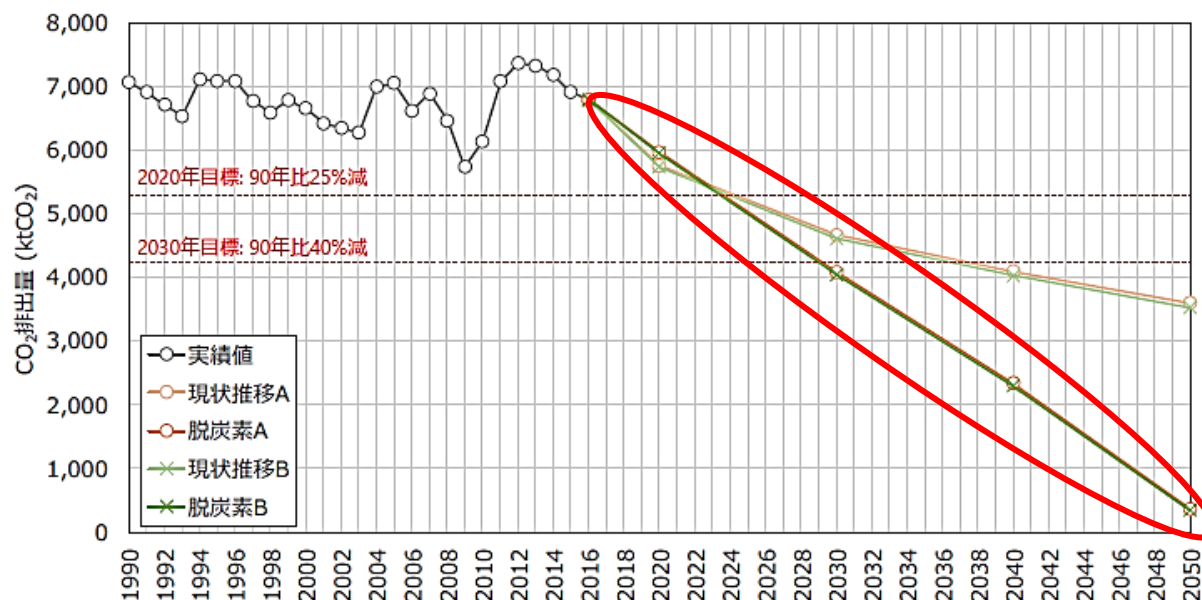
対象：エネルギー起源CO₂
人口：140万人（現在より約7万人減）
経済：実質GDPは年率1.9%で成長
電力：多様な再エネや蓄電池の活用により，再エネ100%



＜主な結果＞

エネルギー消費量：2015年比61%減
CO₂排出量：総量：約95%減

- ・ 家庭部門：ゼロ
- ・ 業務部門：ゼロ
- ・ 産業部門：91～92%減
- ・ 運輸部門：90%減



＜産業技術総合研究所の 研究者の評価＞

- ・ 設定した省エネ対策は手堅い
- ・ 上積みも可能ではないか

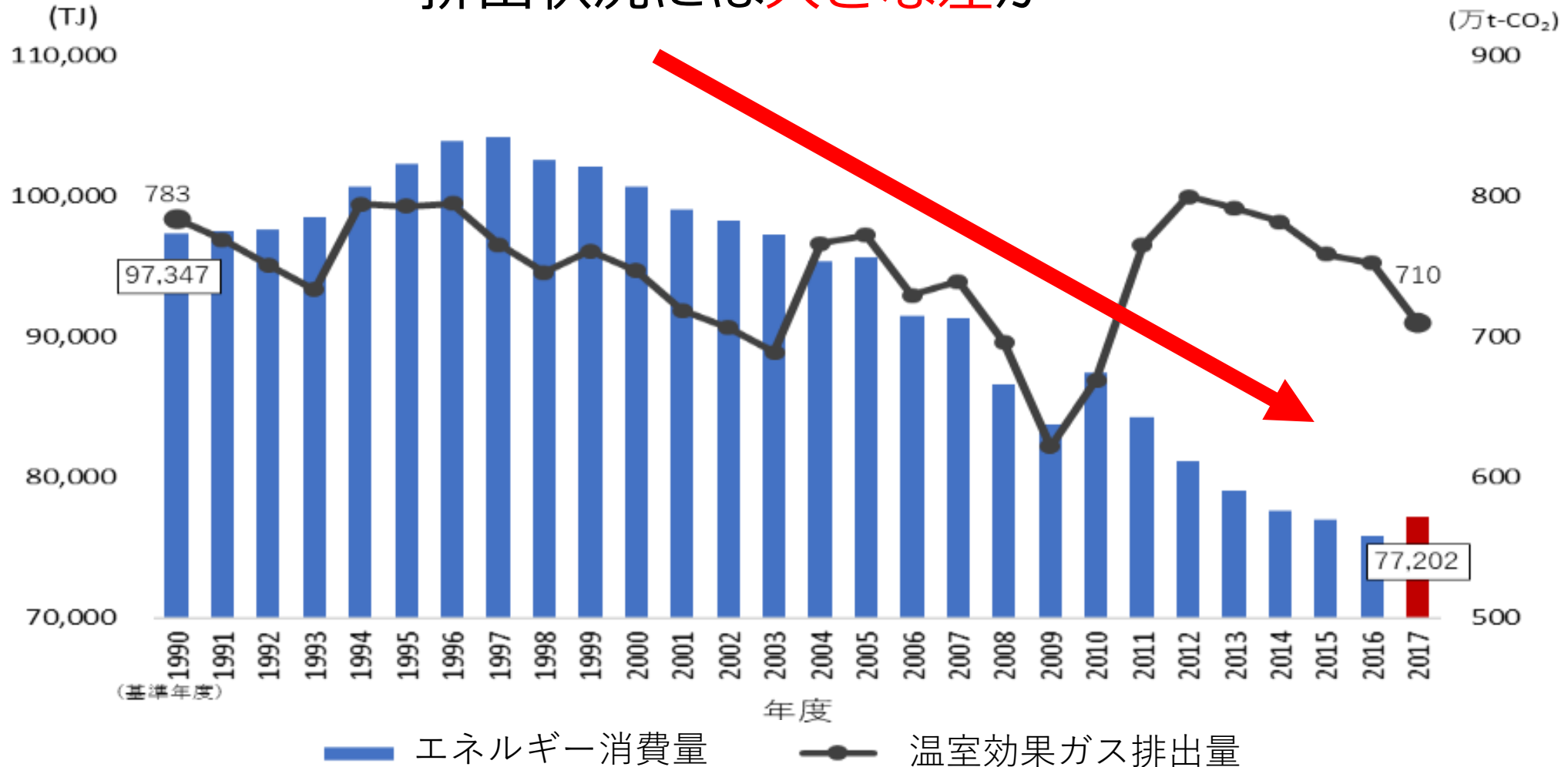
**2050年CO₂正味ゼロは
技術的に可能！**

**⇒ 政策でどのように実現
していくか。**

気候ネットワーク主催「脱炭素セミナー～パリ協定の実現に向けた京都市2050年脱炭素シナリオ～」
（2019年2月26日）の資料（株式会社E-konzal作成）を元に作成

京都市のエネルギー消費量と温室効果ガス排出量の推移

エネルギー消費量と温室効果ガスの
排出状況には大きな差が



2050年CO₂排出量正味ゼロへの道筋

－プロジェクト“0”への道の進化＝「Project 2050 “0”への道」－

プロジェクトⅡ 2050年ゼロを見据えた取組

・制度設計・研究等の期間を経て
2050年に向けた後半期間で効果を発揮

例) 省エネ：公共交通の脱化石燃料化の研究,
都市交通の最適化
再エネ：エネルギー地産地消のための仕組みづくり
イノベーション：大学, 研究機関, 企業等との連携
担い手の育成の継続強化 など

プロジェクトⅠ 2030年目標の着実な 達成を見据えた施策

現在

プラス・アクション

追加対策

削減目標

2030
▲40%
以上

40%にするには

- ◆ エネルギー消費量：ピークから40% 減
- ◆ 再エネ比率：35%

常に追加対策を
検討し取組を進化

2050年
CO₂排出量正味



ゼロ

追加対策

プラス・アクション

※ 1990年度比

NOZ

地球の気温上昇
1.5°C以下に

CO₂ 排出量正味
ゼロ



1.5°Cと2°C。
その0.5°Cの温度差が未来を変える厳しい現実。

**だから京都は
気候変動に挑戦する**